



① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高校一年生の正雄まさおの家は、高円寺こうえんじの和菓子屋わがしや「松野屋」を営んでいた。しかし店がつぶれたため、正雄を気にかけてくれる米屋のむーさんが、長野の実家で世話をしてくれている。本文は、正雄が近所のリンゴ農園を手伝い始めた場面である。

そろそろ、(注1) 剪定せんていが始まっている頃なのに、(注2) 川上のおじさんから、呼び出しの電話がない。

むーさんも連絡れんらくのないことを気にしているらしく、たまに電話が鳴ると、こたつから飛び出して電話をつかむ。私の働きでは、やっぱり役に立たないのだ。

「リンゴ農家は厳しいんだよ。自然相手で、重労働の割には収入が少ないからな。人件費をけずるしかないんだよな」  
むーさんはそう言って、①私をなぐさめてくれる。

私は去年のあの時からずっと、自分の将来を考えていて、あと少しで心が固まる予感がある。

おじいちゃんは(A)のいい和菓子職人で、高円寺に餅菓子もちがしで評判の「松野屋」を作った。そのおかげで、私は何不自由なく暮らしてこれた。それを突然とつぜんに壊こわしたのは、父親だ。いや、今では父親と言いたくもないし、思いたくもないが、そいつが「松野屋」の婿養子むこようしに入って、手に職がなく和菓子も作れないから、自分の存在を大きく見せようと変な事業に手を出してしまったのだ。あいつが和菓子職人だったら、「松野屋」はつぶれなかった。おじいちゃんがかわいそうだ。あいつに、おじいちゃんの「松野屋」をつぶしたことの罪の重さを、もつと思ひ知らせてやりたい。

小さい頃から無気力なはずの私の中に、こんなに意地があるとは、自分で自分におどろいている。そして、死んだおじいちゃんのために、和菓子職人になるしかない、と思い始めた。

「むーさん、僕ぼく、和菓子職人になろうと思うんだけど……どうかな」

「和菓子職人、マー坊ぼういいじゃないか。おじいさん喜ぶぞ！」

久しぶりのむーさんの弾はすんだ声が返ってくる。②と、逆に私の決意けつぎがひるむ。

「職人の修業しゆぎょうって、大変なのかな」

「大変だから修業なんだ」

「僕にやれるかな」

「まだそんな a テイドの気持ちなら、もつと考えるんだな」

むーさんの声がちよつとばかり不機嫌になった。間を置いてから、むーさんが柔らかい b クチヨウで、

「修業がどうしてもいやなら、製菓 c センモン学校つてのもあるぞ」

と、言う。

「でも、学校はお金がかかるからイヤだ」

「それなら、よく考えるんだな」

きつぱりとしたむーさんの言葉は、私をしかっている。

「なになに？ マー坊、和菓子屋さんになるの？ いいわねー」

いつも通り（注3）和子さんが明るく言いながら、台所から晩飯を運んでくる。

昼間は暖かい日が続いているから、こたつのスイッチを切っているが、夕方になるとぐっと冷えこむので、晩飯はまだこたつを入れて食べている。

「マー坊、和菓子屋さんになるんなら、リングを使ったおいしいお饅頭を作つてよ。そうすりゃ、川上さんも儲かって、（③）両得じゃない。いいアイデアでしょ。そうしなさいよ」

「おふくろ、うるさいぞ。はっきり決めた訳じゃないんだから」

和子さんの先走りに、むーさんは顔をしかめて（④）。

「あーら、そうなの。ごめんなさい」

と、和子さんは首をすぼめてテレビを点けた。

「ああーっ！」

「どした？」

「観てよ、観てよ！ むーさん、観てよ！」

「おおつ、中通りの（注4）『潮騒』の娘じゃないか」

テレビの中で、あの中島小百合が歌って踊っている。三人組のアイドルグループの中央にいるのは、確かに中島小百合だ。カワイイ風の d イシヨウに化粧もしているから、高円寺にいた時の彼女よりもかわいくきれいに映っているが、中島小百合に間違いない。

「あの子、ガッツあったもんな」

私が高円寺を夜逃げした後、彼女は本当に夢をかなえたのだ。それに、三人の真ん中にいるということは、その中でいちおしのタレントということだ。

むーさんも私も、箸を止めて、テレビの画面に釘付けになる。

「どの子のこと？」

「真ん中で歌ってる子だよ」

むーさんが面倒くさそうに応える。

「あら、可愛い子ね。真ん中にいるだけあって、歌も踊りも一等うまいわ」

へえー、和子さんにも分かるくらい、中島小百合の歌と踊りはうまいんだ、と思いながら、胸の裏側から悔しい思いがつき上げてくる。

「この子は、マー坊の友達なの？」

「マー坊のガールフレンドだったんだよ」

今一番言われたくないことを、むーさんがさりと言う。

「まあ、ガールフレンドだったの！ マー坊やるじゃない！」

和子さんが、箸をおいて拍手をする。

「やめてよ！ そんなのと違うよ！ ガールフレンドなんかじゃないよ！」

と言いつつ捨てて、二階の自分の部屋にかけ上がった。後ろから、むーさんと和子さんの「マー坊、悪かった」「マー坊、ごめんね」の声が聞こえる。

思いがけない中島小百合の出現に、私は動揺している。彼女に先をこされたという以上に、彼女に負けて悔しいという思いで、（B）  
がいつぱいになっている。

寒くて暗い部屋にしばらくいるうちに、気持ち少しづつ落ち着いてきた。そうしたら、お腹がくうーっと鳴った。

階段を降りて行くと、むーさんと和子さんは、晩飯を先に食べ終えていた。

「むーさん、僕、和菓子職人になる。修業もへこたれずにやるから。和菓子の修業ができる所、どこか探してください。お願いします」

正座をして頭を丁寧に下げた。

「分かったから、先に飯を食え。腹減ってんだらう。話はそれからだ」

むーさんは私のことを何でもお見通しだ。

和子さんが私に顔を近づけて、

「マー坊、さつきはごめんね。からかったんじゃないのよ。おかず、チンしてくるから食べ始めてて」と、小さい声でささやく。

何でもお見通しのむーさんにeセンゲンしたのだから、もう引き返しちゃいけない。引き返せない。「松野屋」にいた、あんな⑤ちやらんぼらんな渡り職人のゲンさんでも、一応職人として働いていたんだから、私にできない訳がない。

おじいちゃんのやったことを、私もやる。絶対に一人前の和菓子職人になってやる。

中島小百合になんか負けていられるかと、ご飯がお腹に入る度に、闘志みたいなものがわいてくる。いつもは、ご飯を一杯か二杯しか食べないのに、三杯もお代わりした。

むーさんは私が食べ終わるのを待っていてくれた。

それから、むーさんは私の目をじっと見て、

「⑥マー坊が本気になったってことが分かったから、オレも明日から、修業させてくれる和菓子屋を本気で探すよ。二、三、心当たりがあるから心配すんな」

と言うから、私もむーさんの目をじっと見返す。今までこんなに長くむーさんの顔を見つめたことがなかったので分からなかったけれど、むーさんの目は細くて切れ長なのに、黒目が大きくまつ毛も長く優しい目をしている。

「明日から僕も、和菓子の本を読んだり、長野の街の和菓子屋さん見て回って勉強するよ」

和子さんが食後のリングをむきながら、

「えらいわー。十七やそこらで将来をしっかりと決めるなんて、東京の子は違うわねえー」

と、私のセンゲンに感心してくれる。

私には、東京の子と長野の子の違いがよく分からないけれど、和子さんの気持ちを裏切ってはいけないと思った。

次の日の朝、むーさんは心当たりの和菓子屋に電話をかけて、話を聞いてもらう日時約束を取ってくれている。むーさんにはめずらしくかしまった物言い、電話にペこペこお辞儀をしている。

『『祥月』の親父さん、明日の午後会ってくれるってさ』

「そう、よかったね。お父さんは古い仲だから、あそこで雇ってもらえれば安心だけどねえ」

武藤家とは古い知り合いの和菓子屋らしい。

私ものんびりとしてはいられない。一人で長野の街の和菓子屋めぐりをすることにした。むーさんに迷子になるなよと言われながら家を出る。一人で長野の街に行くのは、これで二度目だ。駅までの周りのリンゴ園の木は、まだ枯れ木のようだが、そろそろ花を咲かせようと準備している気配がする。

駅の観光案内所で駅周辺のマップをもらって、マップを頼りに近いところから歩いてみる。

こうやって、和菓子屋を目的に歩いてみると、長野の街には思っていた以上に和菓子屋がたくさんあることに気付かされる。

fカクシキのありそうな老舗の店に入ってみる。おじいちゃんが作っていたのとは全然違う美しい和菓子が並んでいる。桜や菜の花や、春をイメージした和菓子だ。もちろん、東京にもこういう和菓子はあふれるけれど、高円寺にいた頃は、そんなものにはまったく興味がなかった。おじいちゃんの作るものが和菓子で、和菓子といえば「松野屋」としか、思っていなかったのだ。

(ねじめ正一『むーさんの自転車』より 一部改めたところがある)

(注1) 剪定……樹木の生育のため、枝の一部を切り取ること。

(注2) 川上のおじさん……リンゴ農園の主。

(注3) 和子さん……むーさんの母親。

(注4) 潮騒……中島小百合の父親が経営している店の名。

(一) 波線部 a f のカタカナを漢字に直しなさい。

a テイド                      b クチヨウ                      c センモン                      d イシヨウ                      e センゲン                      f カクシキ

(二) 傍線部①「私をなぐさめてくれる」とあるが、どのように「なぐさめてくれ」たのか、それを説明した次の文の空欄に入る言葉を

「くからではなく、くからだ」の形で三十文字以内で答えなさい。(句読点を含む)

【川上のおじさんから呼び出しの電話がないのは、くからではなく、くからだとなぐさめてくれた。】

(三) (A)・(B)に入る言葉をそれぞれ次のア～クの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 口                      イ 舌                      ウ 胸                      エ 肩                      オ 腕                      カ 腹                      キ 手                      ク 足

(四) 傍線部②「と、逆に私の決意がひるむ」とあるが、このときの気持ちを説明したものとしてみてもっとも適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア むーさんが心から喜んでくれているのがわかり、自分が本当に期待にこたえることができるのか自信がなくなっている気持ち。  
イ むーさんがいつもよりもおもしろそうにしゃべるので、自分の考えが間違っているのではないかと心配になっている気持ち。  
ウ むーさんがいきなりきげんよくなったので、本心を打ち明けてよかったのかどうか分からなくなって混乱している気持ち。  
エ むーさんが明るくふるまってきているのに気付き、自分がいらぬ気がつかせてしまっていると申し訳なく思う気持ち。

(五) (③) にあてはまる二字の漢字を記し、傍線部の四字熟語を完成させなさい。また、その四字熟語と意味の近いものを次のア～

オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一攫千金いつかくせんきん      イ 一蓮托生いちれんたくしょう      ウ 捲土重来けんどちようらい      エ 一石二鳥      オ 起死回生

(六) (④) にあてはまる言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア うろたえる      イ もてあそぶ      ウ ひるがえる      エ たしなめる

(七) 傍線部⑤「ちゃらんぼらん」の語の意味としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア せっかちな      イ 不器用な      ウ いいかげんな      エ 向こう見ずな      オ だるそうな

(八) 傍線部⑥「マー坊が本気になったことが分かったから、オレも明日から、修業させてくれる和菓子屋を本気で探すよ」について、次の問いに答えなさい。

- i 「マー坊が本気になったことが分かった」とあるが、どのような態度から「分かった」のか、それを表現した一文を本文中から探し、はじめの七字を抜き出ささい。(句読点を含む)
- ii 「修業させてくれる和菓子屋を本気で探すよ」とあるが、その様子がうかがえる一文を本文中から探し、はじめの七字を抜き出ささい。(句読点を含む)

(九) 正雄が前向きな気持ちになったことが表れている情景描写の一文を本文中から探し、はじめの七字を抜き出しなさい。(句読点を含む)

(十) 本文の内容と合っているものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私は、大事なときに父親を助けられなかったことを悔んでおり、これから手助けをしたいと思うようになった。
- イ 私は、自分を理解してくれるむーさんを信頼しているが、将来については本音を打ち明けられなかった。
- ウ 私は、和菓子職人として松野屋を営んでいたおじいちゃんのために、自分も和菓子職人になることを決心した。
- エ 私は、長野の街の和菓子屋には季節をイメージした美しいお菓子があるが、東京の和菓子屋にはないと思っていた。
- オ 私は、同級生が夢をかなえて立派に活躍している姿を見て悔しくなり、厳しい修業にもたえる覚悟ができた。
- カ 私は、和子さんがいろいろと話しかけてくるのを不愉快に感じ、親しげにふるまう態度を迷惑に思っていた。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もしかするとみなさんは、先生やご両親から「人を疑うのはよくない」と教えられてきたかもしれません。でも、こう考えてください。友だちや先生、ご両親など、まわりにいる「人」を疑う必要はない。「人」を疑うのではなく、①「コト」を疑うのです。この「人」と「コト」を切り離して考える a シュウカンを付けておきましょう。

それではなぜ、疑う力が大切なのか。みなさんのご両親が中高生だったころ、また、おじいちゃんやおばあちゃんが若かったころ、疑う力は、それほど重要視されていませんでした。むしろ当時は、「なんの疑いももたず、与えられた課題をガンガンこなす人」が求められていました。数学の問題集をたくさん解いていくような、「課題解決」の力です。

でも、「なんの疑いももたず与えられた課題をガンガンこなす人」は、いまやアジアやアフリカにもたくさんいます。しかも彼らなら、日本人よりもずっと安い給料で働いてくれます。さらに、コンピュータやロボットを使えば、人間よりもずっと速く、たくさん課題をこなしてくれます。コンピュータやロボットには、お給料を払う必要さえありません。こうして昔ながらの「課題解決」の仕事は、もはや日本人には回ってこなくなってしまうのです。

それでは現在、みなさんにはどんな力が求められているのか？ 答えはひとつ。「課題発見」の力です。

ここでひとりの女性を紹介したいと思います。いまから200年近く前、19世紀のイギリスに鋭い知性で世間の常識を疑い、ひとりで闘った気高い女性がいました。彼女の名はフローレンス・ナイチンゲール。そう、おそらく世界でいちばん有名な看護師です。

少し詳しい人なら「戦場の兵士達をやさしく看護した女性」と答えるかもしれません。たしかにそれも間違いではないのですが、ナイチンゲールが歴史にその名を残した理由は、もつと別のところにあります。彼女は、ただひたすら看護に尽くしただけの女性ではありません。「事実としての正しさ」を見極め、大きな「課題発見」を成し遂げた女性だったのです。

1820年、ナイチンゲールはイギリスの裕福な家庭に二人姉妹の妹として生まれました。31歳にしてドイツへと渡り看護の訓練を受け、33歳のときにロンドンにある慈善看護施設の総監督に就任します。周囲の猛反対を押し切って、自分の夢をかなえたのです。

さて、ちょうどそのころイギリスは、ロシアとオスマン帝国（トルコ）のあいだで勃発した、クリミア戦争に巻き込まれていました。そして戦地では、医師や看護師が極端に不足していました。負傷した兵士たちのホウタイを換える人間さえ、足りないほどでした。新聞でそのことを知ったナイチンゲールは、すぐさま行動に出ます。ぜひ戦地におもむいて兵士たちの看護にあたりたいと、大臣に手紙を送ったのです。

こうして1854年、34歳のナイチンゲールは看護師団を率いて戦地へと向かいました。これはイギリス全体を熱狂させる「事件」でした。新聞は、彼女のことを「身の危険もかえりみず、祖国のために立ち上がった上流階級のヒロイン」として大きく報道しました。ナイチンゲールのような上流階級の女性が看護師になること、しかもみずからシガンを着て戦地におもむくこと。これは当時の人々にとって信じられない出来事だったのです。

いったい②彼女はなにを見て、③なにを考え、④どんな行動に出たのか？ ナイチンゲールがその本領を發揮するのは、ここからです。ナイチンゲールが戦地で見たもの。それは、床が腐り、壁には汚れと埃がこびりつき、いたるところに害虫が這いまわる、あまりに不衛生な病院でした。空気を入れ換えることもできず、鼻をつくような悪臭が立ちこめていたといいます。さらに、医療器具や薬品が足りないのもちろんのこと、ベッドもネンリヨウも足りず、石鹸にタオル、お皿や洗面器、スプーンやフォークといった日用品まで不足している、とても病院とは呼べない惨状です。

この戦地の病院で、ナイチンゲールは不眠不休ともいえる熱心さで、患者たちの看護にあたりました。傷を負った無数の患者たちにホウタイを巻くため、8時間もひざまずきました。そして最初の冬だけで2000人もリンジユウにつき添い、重体の患者ほど彼女自身が看護にあたりました。あたりが真っ暗になった深夜、ランプを掲げて院内を巡回する彼女の姿は、「ランプの貴婦人」（ランプ・オブ・

レディー」として後世にまで語り継がれることになりませう。

しかし、このときナイチンゲールは、⑤看護よりもずっと大切な「仕事」に着手していました。のちに彼女は、「看護の仕事は、私が果たさねばならない仕事のなかで、もっとも重要度の低いものだった」と振り返っています。

ナイチンゲールが取り組んでいた、壮大な「仕事」とはなんだったのか？

その全貌が明らかになったのは、クリミア戦争が終結し、彼女がイギリスに帰国した後のことでした。

戦場におもむいた兵士が、亡くなってしまふこと。つまり戦死すること。この「戦死」という言葉を聞いて、みなさんはどんな姿をイメージしますか？ 銃弾や砲撃にさらされ、その傷が原因で亡くなってしまふこと。戦死者とは、とうてい助からないような深い傷を負って亡くなった人のことだ。きっと、そんな風に考えるのではないのでしょうか？ 少なくとも当時のイギリスの「常識」はそうでした。

ところが、ナイチンゲールが戦地で見た現実には、まったく違います。

前線で負傷した兵士たちが、不衛生極まりない病院に送り込まれる。医療物資も生活物資も足りない、いたるところにダニやシラミがうごめくような病院に、押し込まれる。ここで感染症に（注1）罹患することによって、本来は助かったはずの命が失われていく。戦場の兵士たちは、戦闘によって亡くなるのではなく、劣悪な環境での感染症によって亡くなっていくのだ。それがナイチンゲールの結論でした。

当然、彼女としては、政府に対して「戦地の衛生状態を改善してほしい」と訴えねばなりません。数多くの兵士が、戦闘とは直接関係のないところで亡くなっているのです。このまま放置するわけにはいかないでしょう。

しかしこれは、政府や陸軍に対して「あなたたちは兵士を無駄な死に追いやっている」と告発することでもあり、政治的な（注2）スキヤンダルにもつながりかねない話でした。おそらく普通のやり方で改善を求めても、認められないでしょう。

そこでナイチンゲールが使った武器が、看護師の道に進む以前、ずっと学んできた数学であり、統計学だったのです。

最初にナイチンゲールは、クリミア戦争における戦死者たちの死因を「感染症」と「負傷」、それから「その他」の3つに分類し、それぞれの数を月別に集計していきました。

その結果、たとえば1855年1月の場合、感染症による死者が2761人、負傷による死者が83人、その他の死者が324人となっています。つまり、負傷を原因とする死者の30倍以上もの兵士たちが、感染症によって亡くなっていたのです。

しかも彼女は、戦死者の数を集計しただけではありません。きつといま、みなさんもずらずらと数字を読み上げられて「ちよつと面倒くさいな」とか「なんとなくイメージしづらいな」と思ったことでしょう。数字や計算が苦手な人は、たくさんの数字が並んでいるだけでう

んざりしてしまふものです。

そこで彼女は、「コウモリの翼」と呼ばれる独自のグラフを考案し、死因別の死者数をひと目でわかるようにビジュアル化しました。当時はまだ、棒グラフも円グラフも普及していなかった時代。それでもたくさんの人にこの事実を知ってもらおう、理解してもらおうと、まったくオリジナルのグラフを作ったのです。

ほかに、当時イギリスで最も不健康な街とされていたマンチェスター市と死亡率を比較したり、兵士たちの年齢別死亡率をイギリスの平均値と比較したり、兵舎とロンドンの人口密度を比較したり、さまざまな統計データをそろえました

こうしてナイチンゲールは、ヴィクトリア女王が直轄する委員会に1000ページ近くにもおよぶ報告書を提出します。どんな権力者であろうと反論できない、客観的な「事実」を突きつけたわけです。

その結果、戦場や市民生活における衛生管理の重要性が知れ渡り、看護師という仕事が再評価され、感染症の予防にも大きく貢献していくことになりました。

報告書の提出後も、彼女はベッド数から天井の高さ、窓の数までを細かく指導して感染症が蔓延しにくい病院（ナイチンゲール病棟）を建設したり、看護師学校を設立したりと、精力的に活動していきます。

もし、彼女が数学や統計学の素養を持たない、善良なだけの看護師だったなら、目の前の患者を助けることに精いっぱい、医療体制や衛生管理の構造的な欠陥に気づくこともなかったかもしれない。また、仮に気づいたとしても、それを裏づけるデータがなければ彼女の意見に耳を貸す人はいなかったはず。

戦場の兵士たちを救い、不衛生な環境に暮らす人々を救い、イギリスはもとより世界の医療・福祉制度を大きく変えていったのは、看護師としてのナイチンゲールではなく、統計学者としてのナイチンゲールだったのです。

（瀧本哲史『ミライの授業』より 一部改めたところがある）

（注1）罹患する……病気にかかること。

（注2）スキャンダル……不道德な行動をしたという良くないいわさ。

(一) 波線部 a、e のカタカナを漢字に直しなさい。

- a シュウカン      b ホウタイ      c シガン      d ネンリョウ      e リンジュウ

(二) 傍線部①「ぼうせんぶ「コト」を疑う」について。

i ナイチンゲールの例を通して、わたしたちは何を疑うべきだと筆者は述べているか、本文中から五字で抜き出しなさい。

ii ナイチンゲールが戦地での経験を通して疑ったこととは何か、その具体的な内容を三十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(三) 傍線部②「彼女はなにを見て」とあるが、ナイチンゲールが戦地で見た現実とは何か、四十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(四) 傍線部③「なにを考え」とあるが、ナイチンゲールは何をどうするべきだと考えたのか、次の空欄くうらんに当てはまる語句を本文中から十字で抜き出しなさい。(句読点を含む)

【するべきだと考えた。】

(五) 傍線部④「どんな行動に出たのか？」とあるが、ナイチンゲールは自分の考えを政府や陸軍に認めてもらうため、どんな行動に出たのか、その説明としてもっとも適切なものを次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 前線で戦う兵士を無駄な死に追いやっていると、当時の政府や陸軍を告発した。

イ 不眠不休ともいえる熱心さで、ひとりひとりの患者たちの看護にあたった。

ウ 戦死者数を死因別にグラフ化し、さまざまな統計データをそろえて報告した。

エ 感染症が蔓延しにくい病院を建設設計したり、看護師学校を設立したりした。

(六) ナイチンゲールの意見を政府や陸軍が認めたのはなぜか、その理由を説明したものとして適切なものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼女は、祖国のために立ち上がった上流階級のヒロインとして国民に支持されていたから。
- イ 彼女は看護師であるだけでなく統計学者でもあり、その発言には権威がそなわっていたから。
- ウ 彼女の、視覚的に理解できる資料の見せ方によって、彼女の問題意識を共有できたから。
- エ 彼女の考えを裏付ける根拠として、誰も反論できない客観的な事実が示されていたから。
- オ 彼女が、自分の身の危険をかえりみず、多くの兵士の命を救った善良な看護師だったから。
- カ 彼女の活動のおかげで、戦場や市民生活における衛生管理の重要性が知れ渡っていたから。

(七) 傍線部⑤「看護よりもずっと大切な「仕事」とあるが、その「仕事」はなぜ看護よりも大切なのか、その理由を説明したものとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 看護は根本的な課題を解決することができるが、その「仕事」は表面的な課題を発見したことではなされるものだから。
- イ 看護は根本的な課題を発見することができるが、その「仕事」は表面的な課題を解決したことではなされるものだから。
- ウ 看護は表面的な課題を解決することができるが、その「仕事」は根本的な課題を発見したことではなされるものだから。
- エ 看護は表面的な課題を発見することができるが、その「仕事」は根本的な課題を解決したことではなされるものだから。

(八) 本文でいう「課題発見」の力が発揮されているものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 最近子どもが門限を守らないので、なにが原因なのか子どもと話し合った。
- イ 最近自社商品の売り上げが落ちていたので、価格を下げて消費者が購入しやすいうようにした。
- ウ 家にシロアリが発生したので、見かけるたびに殺虫剤でしっかり退治した。
- エ お腹を壊しやすい体質なので、いつでも飲めるようにカバンに下痢止めの薬を入れた。

【問題は以上で終わりです】



①

- (一) a 程度    b 口調    c 専門    d 衣装    e 宣言    f 格式    ⑫
- (二) 役に立たないからではなく、人件費を削るしかないからだ    (26字)    ⑥
- (三) A オ    B ウ    ③ × 2
- (四) ア    ④
- (五) 一挙・エ    ③ × 2
- (六) エ    ③
- (七) ウ    ③
- (八) i 正座をして頭を    ii むーさんにはめ    ④ × 2
- (九) 駅までの周りの    ④ × 2
- (十) ウ・オ    ④ × 2

②

- (一) a 習慣    b 包帯    c 志願    d 燃料    e 臨終    ⑩
- (二) i 世間の常識    ⑤
- ii 戦死した兵士の死因は、戦闘（銃弾や砲撃）による負傷であるという考え。    (27字)    ⑧
- (三) 数多くの兵士が、劣悪な環境での感染症によって亡くなっていること。    (32字)    ⑧
- (四) 戦地の衛生状態を改善    ⑤
- (五) ウ    ⑥
- (六) ウ・エ    ③ × 2
- (七) ウ    ⑥
- (八) ア    ⑥